

学校部活動の抱える諸問題

(部員数と指導方針についての調査)

富山県高等学校体育連盟研究部第1分科会

1 はじめに (分科会テーマ設定の主旨)

近年、運動部加入者は、生徒の減少や趣味・嗜好・価値観の多様化などによる生活形態の変化などから、部活動離れが全国的に見られます。このことは、本県高体連の各専門部においても危惧される大きな問題となっています。

そこで、本分科会では、今年度は実際に現場で生徒を指導している運動部活動正顧問の意識に着目することによって、学校部活動の抱える諸問題、特に部員数と指導方針について何らかの手立てを見つけることは出来ないかと考え、本調査を実施しました。

2 調査方法

- (1) 調査対象 富山県内高等学校運動部活動正顧問
- (2) 調査時期 平成12年10月25日～平成12年11月20日
- (3) 調査形式 質問紙方法
- (4) 配布数 県内高等学校 54校
- (5) 回答数 34専門部 773名

3 結果と考察

結果集計においては、単純集計を行い、質問項目ごとに考察を行った。

アンケート結果について

最近の加入数について

回答項目	回答数	%
1 大幅に増加している	20	3.1
2 増加している	73	11.5
3 変わらない	231	36.3
4 減少している	227	35.6
5 大幅に減少している	86	13.5

積極的に (向上心・目標等を持って) 活動している部員はどれくらいでしょうか。

割合	回答数	%
0割	21	3.5
1割	34	5.6
2割	48	7.9

3割	50	8.3
4割	29	4.8
5割	74	12.2
6割	33	5.5
7割	52	8.6
8割	74	12.2
9割	75	12.4
10割	115	19.0

部活動の活動時間・指導時間はどれくらいですか。

活動回数

週当たりの活動回数	回答数	%
0日	17	2.7
1日	12	1.9
2日	16	2.6
3日	22	3.5
4日	13	2.1
5日	104	16.7
6日	321	51.6
7日	117	18.8

活動時間

1回当たりの活動時間	回答数	%
0時間	17	2.7
0～1時間	28	4.4
1～2時間	206	32.5
2～3時間	294	46.4
3～4時間	78	12.3
4～5時間	10	1.6
それ以上	0	0

指導回数

週当たりの指導回数	回答数	%
0回	54	8.5
1回	85	13.4
2回	69	10.9
3回	61	9.7
4回	58	9.2
5回	69	10.9
6回	150	23.7
7回	86	13.6

指導時間

1回当たりの指導時間	回答数	%
0時間	54	8.5
0～1時間	133	21.0
1～2時間	188	29.7
2～3時間	197	31.2
3～4時間	50	7.9
4～5時間	6	0.9
それ以上	4	0.6

あなたの勤務校の加入方法は

回答項目	回答数	%
1 全員加入制である	257	43.0
2 自由加入制である	340	57.0

全員加入制の場合の問題点

回答項目	回答数	%
a 受け皿の中に、興味のある・入りたい部がないため、やる気のない生徒が入部してくる。	261	36.4
b 部員数が増えすぎる	22	3.1
c 活動スペースの問題	80	11.1
d 俗に言う、幽霊部員が増える	251	35.0
e 指導の問題	81	11.9
f その他	23	3.2

- ・やる気のない生徒が楽な部（毎日活動しないなど）へ逃げ、普通にやっている部に入っていない。
- ・楽しさだけを求める部員が多いため、向上心のある部員の指導が思うようにできない。
- ・勉強したい生徒への障害になる。
- ・文化部の部員の増加。
- ・指導者によって活発な部、そうでない部が出る。（指導できない教員の増加）
- ・指導者の数が足りなくなるのでは。
- ・ST・清掃・その他、終われば午後4時。文部科学省や国がパンフレットで推進する家族揃っての明るく楽しい夕食が午後6時。何が全員加入ですか。

自由加入制の問題点

- ・加入しない生徒になびいてしまう。
- ・やる気に差が出るので、しっかり目的のある生徒の邪魔になる。
- ・集団スポーツにおいて、人数的に成立しないケースが出てくる。
- ・学校全体の活気がなくなる。
- ・部員数の減少により、部活動を通して得ることの出来る人間関係や経験を味わう事の出来る人数が減る。
- ・存続できない部がでてくる。
- ・入部していない生徒への生徒指導などに時間が取られるようになる。
- ・やめなくなったら、すぐにやめてしまう。
- ・部としての目標が設定しにくい。
- ・経験者（実績のある生徒）も部に入らなくなる。
- ・部員数の予想が出来ず、チーム編成・活動計画に支障が出る。
- ・指導者主体の指導法は受け入れられにくくなる。
- ・取り組みがいい加減な生徒に対する対応
- ・時間を無駄に過ごす生徒の増加
- ・部活に対して疑問を持つ教員の増加
- ・規律が保ちにくい
- ・入部を迷う生徒はきっかけを得られず、本当に好きな者しか入部しない。

あなたの部員確保の方法を教えてください。

回答項目	回答数	%
a 事前のスカウトによる	78	9.1
b 入学後に自ら声をかける	242	28.5
c 部員による勧誘	373	43.9
d 特別なことをしなくても たかさんの生徒が入部して くれる	105	12.4
e その他	52	6.1

- ・ポスター作成
- ・体験入部・説明会の開催
- ・部紹介・オリエンテーション・見学会を利用
- ・入部希望者と個々に話し、意欲のある者を入部させる。
- ・常時、部活に顔を出し、まじめに活動している部だという好印象を与える。
- ・出入り自由
- ・自主的に入部してくれるのを待つ。
- ・授業中に魅力を伝える。
- ・一生懸命取り組み、成果をあげる。
- ・特に何もしない。

入学後に声をかける場合の具体的方法

- ・説明会を開催する
- ・中学校の先生にお願いする
- ・中学校時代の部歴を調べる。
- ・授業態度や日常生活を見て、やる気のある生徒に声をかける。
- ・スポーツテストの結果を見て勧誘。
- ・体格を見て勧誘する。
- ・中学時代の経験者に電話連絡
- ・褒めちぎってその気にさせる。
- ・全国大会等に出場できる可能性があることを十分に説明する。
- ・スポーツの魅力を語る
- ・入部する部を迷っている生徒に声をかける。
- ・あらゆる機会を利用し、手当たり次第声をかける。
- ・パンフレットの配布。
- ・運動能力の高い生徒に声をかける。
- ・「一緒に楽しく頑張ろう」と声をかける。
- ・親に加入を勧める。
- ・自分のクラスの生徒に声をかける
- ・体験入部
- ・見学時に声をかける
- ・全1年生に手紙を出す。

部員数増加の手立て

回答項目	回答数	%
a 勝利にこだわらない部活動	118	8.5
b アットホームな部活動	150	10.8
c スポーツの楽しさを追求する部活動	297	21.4
d エリートを集め、勝つことを追求する部活動	50	3.6
e 地元の小学生を継続して指導し、入学させる	105	7.6
f 部活動の数を減らす	97	7.0
g 1日の部活動の時間を減らす	41	3.0
h 休日は休みにする	200	14.4
i 部員が増えなくてもよい	167	12.0
j 学校の体制を全員加入制にする	82	5.9
k その他	79	5.7

- ・活動内容の充実
- ・生徒の目的に合った部活動
- ・魅力のある活動を心がける。
- ・エリートは集めないが、勝つ喜びを多く経験させる。
- ・競技することの楽しさを小・中学校で教えて欲しい。あまりに勝敗にこだわりすぎて高校でスポーツはやりたくないと思っている生徒が多い。
- ・入部者が充実感を感じるものにする。
- ・競技をメジャーにする。
- ・各学校の指導者に対するバックアップ。
- ・加入した部員をしっかり指導し、最後まで面倒を見る。
- ・指導者・設備の充実
- ・まじめに活動した生徒を学校などが評価してやる。
- ・部活動の意義・人間教育の意義を理解させる。
- ・学校全体で部活動を盛り上げる雰囲気をつくる。
- ・多少厳しくても入部したいと思うムードづくり。
- ・指導時間を増やし、生徒に身近な目標を与え頑張らせる。
- ・まず、教師からがんばる。
- ・メリハリのある練習と時間の使い方。
- ・推薦入試で確保する。
- ・部としての特色や魅力をうち立てる。
- ・なぜ、増やす必要があるのか。
- ・部員が増えることだけが良いことではない。

部員数増加への意欲

回答項目	回答数	%
a 増やしたい	294	47.5
b 増やしたくない	103	16.6
c どちらでもよい	222	35.9

指導方針について

回答項目	回答数	%
a メンタル中心	396	31.8
b 競技力向上	292	23.5
c 基本中心	290	23.3
d けがのない様に、楽しく生徒と接する	123	9.9
e 生涯スポーツの一端をになうために、底辺に重点をおいた指導	107	8.6
f その他	36	2.9

- ・ 競技を通じて多くを学び、人間形成の一端を担う。
- ・ 教育として
- ・ 本人が向上していく喜びを教える。
- ・ 競技の真の楽しさを伝えてやりたい。
- ・ 社会に出てからの礼儀・マナー等を教える。
- ・ 自己実現
- ・ レベルに応じた指導
- ・ 生徒の自主性
- ・ 物事の順番理解・姿勢・基本・応用・実践
- ・ 基本的生活習慣
- ・ 身体を動かすことは大切なこと。多くの経験をさせたい。
- ・ 指導できない
- ・ 何もしない

全く指導していない場合の理由

回答項目	回答数	%
a 忙しい	68	30.4
b 教えることができない（専門でない）	105	46.9
c 外部講師がいるので、特に教えなくてもよい	17	7.6
d 学校長から委嘱された形だけの顧問だから	10	4.5
e 生徒が自分の指導・考えについてこないので教えたくない	5	2.2
f 部活動の指導をするのがいやでならず、活動場所へ足が向かない	7	3.1
g その他	12	5.4

学校の施設不足
 休部状態である
 3年の担任なので
 指導者の体力とスタッフ不足

部員がこない
もう一方の先生が頑張っている

部活動の範囲に対する意識

回答項目	回答数	%
a 進路指導	150	10.3
b 生徒指導	491	33.8
c 休日指導（時間外含む）	259	17.8
d 学習指導	115	7.9
e 合宿所指導（共同生活）	90	6.2
f 根性指導	65	4.5
g 他の施設での指導	78	5.4
h 保護者会設立	35	2.4
i OB会設立	25	1.7
j 家庭における生活習慣などへの指導	119	8.2
k その他	24	1.7

今後学校部活動の今後のあり方

- ・社会体育に移行していけだろが、個人的には現状のままがよい。
- ・学校間の合同チームが必要となる。
- ・社会体育（地域クラブ）への移行。
- ・社会体育（地域スポーツクラブ）との併存。
- ・小・中・高、一貫指導。
- ・外部講師の指導。
- ・名門チームは残り、弱小チームは廃部。
- ・顧問は校務に追われ指導時間がなくなる。そんな部活動には生徒はこない。
- ・縮小されていく。
- ・部活動を行う生徒の減少により、運動面・精神面の低下につながる。
- ・休部するところが増え、競技人口の減少、日本全体の競技レベルの低下につながる。
- ・指導者不足、部員不足となり、自然淘汰される。
- ・部活動は衰退していった一部のスポーツクラブが残る。高校も学力だけ向上させる高校か、スポーツ校が生き残り、体育教員もプライドが無いサラリーマン教師が増え、必ず校内暴力のような事件が起こると思われる。当然、学校間の格差が広がり底辺校は統廃合の対象となるだろう。
- ・団体競技等はチームが作れなくなる。しかし、学校として野球やサッカーをつぶすような大胆な発想は生まれまいだろう。
- ・形式的なものと勝利至上主義的なものどちらかになるだろう。（二極化）
- ・部活の存在意義の見直しと社会の情勢の中での体制やシステムの再構築が迫られる。
- ・指導者は教員であっても別途の勤務条件が必要となる。

学校部活動に対する意見・不満など

- ・今までの指導法を大きく変えていくことが必要ではないか。
- ・部を通し、生徒の人間性を高められるので、今からの時代に絶対必要。協力して存続させるべき。
- ・生徒の考え方の多様化により、なかなか競技力の向上は望めないのではないか。
- ・勝つための弱い選手の切り捨て、親への金の負担などを根本的に考え直す必要あり。
- ・部活動こそが学校を正常に保っていくものとする。
- ・教員のボランティアでやっていくには無理がある。
- ・教員が指導するところは、学校全体のバックアップが不可欠。
- ・上級学校・企業の受け皿の少ない富山県では、生徒の意欲に影響がある。
- ・2001年国体も2000年国体と同様なことをすべきである。
- ・高校が勉強だけを教える場になってはいけない。
- ・部活のために教員がいるのではない。
- ・現在の形で部活動があることが間違いであると思う。
- ・合宿・遠征や校外での部活動に金銭的負担や時間的拘束が多く、手当が出ない状況の中、何のためにやっているのか疑問に思えてきた。
- ・学校教育の一環としてどんな形であれ継続していくべき。
- ・教員が指導するには限界がある。また、部活動は教員の本務ではない。教員に事実上ボランティア活動の指導を委託している今の体制には無理がある。
- ・指導は有資格者が行うべき。(専門的な指導が必要) 行政の対応の遅さにはまいる。いつまで知らない顔をしているのか。

4 まとめ

今までの運動部活動の多くは、趣味的活動に対しては否定的であり、「部活動を行う以上は競技力向上を求め、その結果を出すものとして競技大会がある。」というのが一般的であったと思う。ところが、一部の学校による勝利至上主義や選手獲得により、他の学校の上位入賞が難しくなっている現状や高校生への部活動に対する考え方の変化・多様化等から多くの学校で部員の確保に苦慮し、そして今後も予想されるであろう少子化への対応が必要不可欠となってくる。

そして、これからの高校部活動のあり方について、顧問の意思が最も顕著に現れたと思われるのは、「スポーツの学校部活動から社会体育(地域スポーツクラブ)への移行」に対して肯定的な意見が大多数を占めたこと。合同部活動に肯定的な意見も多かったという結果である。

現在の社会情勢等から、また「生涯スポーツ」という観点からもこの2つの方向への動向を見ることが出来、このことについて、我々も運動部の1顧問として考えていかなければならない課題である。

我が富山県高体連研究部は発足して1年足らずと歴史は浅いが、今後もいろいろな側面から研究を重ね、富山県の高等学校部活動が、そしてスポーツ全体が活気のあるものとなるよう努力していくつもりである。